

Vol. 164号

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

2018(平成30)年
1月1日発行

社会福祉法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町 2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-3952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 39 岩立 徳治さん 『手賀沼の朝』(詳しくは17頁をご覧ください。)

時評

2017年度上半期事業報告

法人の主な動きから

とびっくす

法人本部・コロニー中野・トーコロ生活支援センター(〒165-0032 中野区鷺宮3-18-15(仮移転先))・中野区仲町就労支援事業所(〒164-0011 中野区中央3-19-1)・中野区中野福祉作業所(〒165-0027 中野区野方1-35-8)・トーコロ情報処理センター 事業部・職能開発室・デジタルメディアセンター(〒170-0005 豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル6F)・東京都葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石8-50-1)・コロニー東村山・アートビリティ(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・東村山市障害者就労支援室(〒189-0014 東村山市本町1-1-1)・東京都大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・城南島工場(〒143-0002 大田区城南島4-3-9)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロあおば就労サポートセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)・東久留米第三氷川台寮(〒203-0002 東久留米市神宝町2-14-26)・えはらハイツⅠ、Ⅱ、Ⅲ・中野江原短期入所・中野区日中一時支援(〒165-0023 中野区江原町3-23-2)・天神山こあらハイツ(〒202-0013 西東京市中町3-10-9)

時評

何が起きているのか

理事長 中村 敏彦

はじめに

昨年の7月以降、相次いで報道されている事業所閉鎖と障害者の一斉解雇の記事に憤りを感じずにはいられません。その後も同様の記事が各方面から寄せられています。継続して調査は進められているようですが、私たちの働く現場にいったい何が起きているのでしょうか。

倉敷市内にある障害者の就労継続支援A型事業所5カ所が今月末で閉鎖され、働いている障害者約220人が解雇予告を受けていることが20日、分かった。障害者の一斉解雇としては全国的にも異例の規模。同市などは同日、再就職に向けた説明会を市内で開

いた。(山陽新聞7月20日 引用)

就労継続支援A型事業所を運営する株式会社「障がい者支援機構」(名古屋市北区)が経営に行き詰まり、同区と愛知県清須市の事業所2カ所で障害者計69人が今月末で解雇されることが分かった。他地域でも同様の事業所の閉鎖があり、厚生労働省は経営実態を把握するように自治体に通知した。同社は2013年から全国6カ所で、障害者と雇用契約を結んで最低賃金以上を払って軽作業などの職業訓練を行う就労継続支援A型事業所を運営していた。ところが今年7月末までにすべての事業所が閉鎖された。

(中日新聞8月23日 引用)

障害者が働きながら技術や知識を身につける就労事業所が、経営悪化を理由に廃業し、障害者を大量に解雇するケースが相次いでいることが関係者への取材で分かった。

就労事業所を巡っては受け入れられる障害者の人数に応じて補助金を受け取れるため、事業の収益を確保できなくても参入できる構造がある。国はこうした状況を是正するため、4月に補助金の支給要件を厳しくしており、大量解雇に影響を与えた可能性がある。

(毎日新聞8月23日 引用)

問題となっているのは「就労継続支援A型事業所」。障害者と雇用契約を結び、都道府県ごとに定める最低賃金以上を支払った上で、軽作業などの職業訓練をする。近年急増しており、2016年度時点で全国に約3千600カ所。運営者には国から障害福祉サービスの給付金として、障害者1人当たり1日5千円以上(定員20人以下の場合)などが支払われるほか、障害者の継続雇用に向けた助成金を受け取ることもできる。

一方で、2015年度に廃業したのは141事業所で前年度から倍増。公金頼みの事業所が少なくないとみられるため、厚生省は今年4月の省令改正で給付金から障害者の賃金を支払うことを禁止し、事業を健全化して、収益で賄うよう促した。

(東京新聞8月23日 引用)

同じ就労継続支援A型事業所を運営する当法人としては、身の引き締まる思いと同時に放置できない問題として受け止めています。そこで今回は、この問題の背景に触れ、障害者の「働くこと」について改めて考えてみます。

社会福祉基礎構造改革もたらしたもの

障害当事者、家族や関係者を含む多くの先人たちによる、様々な活動や運

動の積み重ねの上に、現在の日本の障害者施策があるの言うまでもありません。この数年わが国が取ってきた福祉施策は、市場原理主義をベースに、低福祉高負担、自己責任、小さな政府を推進し、政府が市場に放任することでした。この改革によって、私たちの暮らしよりは良くなったのでしょうか。この度のA型事業所の問題の最たる要因は、障害福祉分野に過剰な規制緩和を伴った市場原理を持ち込んだ結果ではないでしょうか。

厚生労働省は、予測できなかったとされているようですが、営利目的で事業が経営できる市場に開放されれば、当然、倒産もあり得ることです。現実問題に視点を当てなければ、正しい対策は打たれないと思います。

労働施策の限界

厚生省で毎年実施している50人以上規模の企業の雇用率調査では、2016年には475千人が雇用されています。平均雇用率は1・92%で毎年上昇していますが、法定雇用率20%には達しておらず、法定雇用率達成企業は48・8%に留まっています。また、全国平均で法定雇用率を達成したことは一度もありません。さらに、0.5(人数)やダブルカウント制度は、障害者の労働力を正しく理解し評価しているとは言えず、実態を把握しづ

2017年度 上半期事業報告

※2017年9月末時点の報告書となります。

1. はじめに

本年度は、かつてないほど国際情勢の不安定・緊張が増幅している中、わが国では衆議院解散が表明され10月には総選挙になる見込みです。憲法改正についても争点の一つとなっており、ことから、平和維持への懸念が膨らみま

す。経済状況は景気回復基調の報道が流れ、実感を伴わないという多くの世論から格差社会の深刻さがうかがえます。国連障害者権利条約を批准してから3年目、実質的に障害者の暮らしの質はどのように向上したのでしょうか。私たちは、事業の目的をしっかりと再確認し、先行きの見通しが不透明な中であっても、障害のある人の生活が少しでも向上するよう努力を続けたいと思います。

前年度から、改正社会福祉法に基づく事業運営への対応に追われ、必要な体制作りは一旦区切りをつけることができました。一方、新たな障害者基本計画の策定や障害者総合支援法施行3年後の見直しの議論も活発化しており、引き続き注視していく必要があります。次年度の福祉サービス報酬改定の論点では、障害児支援の拡充、施設利用者の高齢に伴う重度化に対応するサービスの充実、就労分野ではさらに一般就労を推進するための定着支援を創設することなど、施設支援におけるサービス内容や役割を見直していく論調が強くなっています。

本年度の最大の課題は、激変する社会福祉の環境の変化に柔軟に対応し、障害のある人の暮らしを支え続けられる事業を継続すること、さらには、建

て替え等の大事業を確実に実行していくことです。建て替え時の仮移転場所での事業運営や、会議の開催場所は法人内拠点の提供を受けるなど、様々な連携体制の下運営しています。また、新たな中期事業計画を具現化するために、事業本部制や法人本部の在り方などを含めて検討に入りました。引き続き、将来の法人像を意識しながら、各拠点が自立した事業運営に最大限努力しつつも、お互いに課題を共有し、法人全体で協力していくこととします。

2. 上半期事業結果と年度方針の達成状況

上半期の事業結果は、在籍者の推移では表1に示すとおりであり、総人数814名(前年度末805名)で9名増(非常勤嘱託医を含まない)、内障害者

は533名(前年度末525名)で8名増、障害者比率は65・5%(前年度末65・2%)となりました。在籍ではない契約者・登録者(表2)1,303名を加えると2,117名の人達に責任を負う組織となっております。就労移行を支援する事業では、上半期の一般就職者は(表1・2合計)47名となりました。期中の法人全体の経営結果は、貸借対照表(表3)に示すとおり厳しい状況は続いています。

各施設整備補助を含めた特定収入が収入全体の5%を超えたことで、消費税に調整計算が発生し、前年度の決算に間に合わなかったことも併せて、損益に大きく影響することとなりました。本年度末は、さらに大きな補助を受けることとなりますので、なお一層厳しい決算状況が予測されます。

- 新たな中期事業計画、本年度事業計画に基づき、社会福祉法人としての役割を改めて確認し、就労支援事業の経営改革はもとより、利用者の重度・高齢化に備え、福祉の専門性の向上に取り組み、期中の事業状況は以下の結果となりました。
- (1)経営の基本方針
- ・ 私たちを取り巻く環境も大きく変化していることを背景に、法人に籍を置くすべての者が自ら規範としていけるよう、「従業員行動規範」から従業員を削除し「行動規範」として改訂しました。また、法人の基本理念のひとつである「当事者主体」について、国連障害者権利条約にもあるように、他の者との平等を基礎としてという国際基準も参考にしながら「平等性」に変更しました。
 - ・ 社会福祉法改正に伴い、経営理念や倫理、社会的役割を重視した定款への変更など、諸々の作業を完了しました。
 - ・ 法改正や業務改善などに伴う法人の規程等、必要に応じて見直しました。
 - ・ 6月の理事会、定時評議員会において、理事・監事は評議員会で決議され、評議員は、評議員選任・解任委員会により選任されました。また、新たに外部会計監査人との契約を締結し、監査が開始されるなど、新たな体制で運営しています。
 - ・ 福祉サービスの質的向上のために、第三者サービス評価受審の準備、苦情解決第三者委員制度を継続し、情報開示については広報誌やホームページ等を活用しました。
 - ・ 経営や福祉の専門性を向上することを目的とした教育、研修を年度計画に基づき、また必要に応じて適宜変更を加えて実施しました。下半期も同様に実施する予定です。
 - ・ 福祉業界全体をとおして人材確保が困難な時代といわれており、当法人では、人材確保や定着促進を目的に、長年着手できなかった給与規程を見直すべく、前年度に給与規程改定プロジェクトを立ち上げました。プロジェクトの意見をもとに、所長会、常務会、常任理事会で審議を重ね、労働組合や従業員代表と協議しながら改定する予定です。

表1 在籍者の推移

自2017(平成29)年4月1日 至2017(平成29)年9月30日

(単位：人)

	前年度末 在籍者数	期中増減				主な減員理由			上半期末 在籍者数
		増員		減員		自己都合	一般就労	疾病、その他	
雇用就労者	99	2	(1)	3	(0)	2	0	1	98
	(80)	(0)	(0)	(3)	(0)	(2)	(0)	(1)	(77)
事業・施設の利用者	348	32	(0)	26	(0)	23	3	0	354
その他	78	13	(0)	10	(0)	2	0	8	81
障害がある在籍者 (計)	525	47	(1)	39	(0)	27	3	9	533
	(80)	(0)	(0)	(3)	(0)	(2)	(0)	(1)	(77)
障害がない在籍者	280	14	(2)	13	(3)	9	0	1	281
合 計	805	61	(3)	52	(3)	36	3	10	814
	(80)	(0)	(0)	(3)	(0)	(2)	(0)	(1)	(77)

- (注) 1) A型従業員については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の()で再掲している。
 2) 増員および減員の各右欄には法人内異動を()で表記している。
 3) その他にはグループホーム利用者・在宅パソコン講習生・放課後等デイサービス利用者を含む。
 4) 在籍者数には非常勤嘱託医を含まない。

(2) 財務・資金管理

- ・会計顧問の指導を受けながら、社会福祉法人会計基準により精度の高い管理に努めました。

- ・将来必要となる資金については、計画的に積み立てることに継続して取り組んでいます。

- ・財務や資金管理については各拠点の経営努力を原則とし、法人本部は建て替え等で新たに必要になる資金や緊急時の運転資金等を含め、拠点間の窓口となって全体を把握・調整に努めました。また、可能な限り法人内部の資金活用比率を高め、外部からの借入金の圧縮に努力しました。

(3) 事業の継続

- ・人権と平等性を尊重し、福祉サービスの充実と経営改善、事業継続に努力しています。

- ・民営化や老朽化に伴う事業所の建て替えは、補助認可に従って順次着手し、事業者の協力を得ながら、法人全体では適宜進行状況を共有し進めています。

- ・拠点ごとのBCP(事業継続計画)を全拠点で策定に着手しました。

(4) 他の団体との協力連携

- ・障害者福祉の向上のために、内閣府、厚生労働省、経済産業省ならびに、東京都、各区市自治体、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、一般社団法人ゼンコロ、NPO

- 法人日本障害者協議会、全国社会就労センター、日本セルフセンター、東京都セルフセンターなどにおいて

- 積極的に役割を果たしています。

- ・社会保障制度改革や他の福祉サービスとの一元化、地方分権による地域格差の拡大など、障害者の暮らしに直接影響を与えると思われる課題には、障害分野から視点を充てた問題提起や運動で、特に連携を深めています。

- ・従業員等が、対外的な立場において十分に役割発揮ができるように、可能な限り配慮し支援しています。

(5) 地域活動

- ・拠点ごとの地域活動においては、各自治体との連携を深め情報交換を密にしながら、地域福祉の向上ならびにニーズに応じた障害者福祉の充実に努めています。

- ・地域の福祉関連ネットワークには積極的に参画し、地域の重要な社会資源になり得ることを目指しました。

3. 各事業本部の事業の実施概要

社会福祉法人として期待に応えていくために、既存事業の充実に努力するとともに、事業の見直しや新規事業への取り組みなども並行して進めています。また、新たに生活介護事業を実施する拠点では、人材確保や教育に着手し開設準備に備えています。

各事業本部の期中の状況は以下のとおりとなりました。

(1) 法人本部(事務局)

年間の教育研修計画を企画立案・提案し、計画に則り実施しています。法人全体の財務運用の適正化、各拠点の事業運営に貢献していくことに努力し、事務処理部門の連携により的確な情報提供・共有に努めました。プライバシーマークの認証取得法人として、個人番号を含めて、その維持・向上に各事業所と連携して取り組み、また適宜、必要な情報提供、集約に努め、各行政窓口との折衝についても、事業所と連携

して積極的に関わりを持ちました。

(2) 福祉事業本部(グループホーム等、トータル生活支援センター)

既存の共同生活援助、短期入所、居宅介護等ならびに中野区内各拠点と連携して特定相談支援事業「こるまっぷ」を運営しました。加えて、就労支援事業所の所在する地域のニーズに応じてグループホームの増設を視野に、期中には数件の可能性について検討に入り、練馬区の創設が具体的となり、年度内に開設できる見込みです。引き続き、障害のある方たちの暮らしの質を向上できるよう努めていきます。

(3) IT事業本部(トータル情報処理センター(事業部、職能開発室、デジタルメディアセンター))

事業本部下の連携・協力により事業の安定化、障害者雇用努力しています。法人内では、ICT(情報処理および情報通信)技術等を介して法人内各事業所に関わり、ネットワーク委員会などをつうじて横断的に役割を果たしました。IT関連の事業面では、適正価格の判断や丁寧な顧客対応により、顧客の深耕ならびに新規の獲得などに

表2 参考資料：「在籍者の推移」に含まれない人員状況

2017年度上半期末および上半期中人数

(単位：人)

	登録・契約障害者	一般就職者	トライアル雇用者等	一般就職者累計
福祉事業本部 (短期入所、移動支援、居宅介護等)	212	—	—	
中野障害者計画相談支援室 「ころまっぷ」	*3 147	—	—	
IT事業本部 (在宅教育修了生、職業紹介登録者等)	31	*1 3		
コロニー中野 (委託訓練修了生)		*2 0		
東村山市就労支援室	474	41		
コロニー障害者計画相談支援室 「ふきのとう」	*3 214	—	—	
アートビリティ	*4 200	—	—	
東京都葛飾福祉工場 障害者計画相談支援室	*3 25	—	—	
計	1,303	44	0	

*1 在宅教育修了者からの一般雇用3人、職業紹介事業者からの一般雇用0人

*2 「東京しごと財団」委託訓練修了者からの一般就職者

*3 計画相談契約者数

*4 契約者以外の作品利用が行われた数も含めているため概数としている。

*5 在籍者以外で2007.4～2017.9に当法人で就職をサポートした人の累計

努力、激化する価格競争による厳しい売上高確保の中、一定の受注量を確保することができました。デジタルメディアセンターでは、前年度に続き事業の安定化を基本目標にして取り組みました。

職能開発室では、福祉施策にはない事業領域において、試行錯誤しながらも新たな挑戦を続けており、雇用・就業支援では厚生労働省のプロジェクトにも協力し、既存の民間のハローワーク業務の認定法人としての役割や、受託事業である東京都障害者IT地域支援センターを運営しています。また、新たな働き方として国内でも注目されているテレワークについて、「障がいのある方の全国テレワーク推進ネットワーク」の共同代表を務め、推進・普及に努力しています。8月には、厚生労働省宛て、在宅就労中や公的な就労支援事業の利用中における訪問介護サービスが利用できるよう緊急要望書を提出しました。

トーコロ青葉ワークセンター）
中野区地域では、コロニー中野・法人ビルの老朽化による建て替えは、国の前年度末補正予算による社会福祉施設等施設整備補助事業の内示を受け、急ぎ進めることとなり年度内の竣工を予定しています。区の指定管理事業所では管理・運営の充実を目指し、中野区中野福祉作業所は(仮称)中野5丁目障害者多機能型通所施設の社会福祉施設等施設整備補助事業が決定し、11月中には竣工できる見込みです。三多摩地区では、東村山市障害者就労支援室や特定相談支援事業「ふきのとう」や、放課後等デイサービス事業「アリーバ」での役割を發揮するとともに、既存事業の運営では福祉サービスのさらなる向上に努めました。多岐に亘る就労支援事業においては、ベーカーリー事業では外部販売先の開拓、印刷事業やその他の自主製作品の販売や清掃などの受託事業等では品質管理や生産性・収益性の向上に努めました。アートビリティ事業では、登録作品の充実と利用頻度の拡充を目指し、加えてアートビリティ+（プラス）による商品開発・販

売を進展させることに努力しています。
 (5) 福祉工場事業本部(東京都葛飾福祉工場、東京都大田福祉工場)
 いずれも就労継続支援A型事業の定員が多く、事業運営にはより企業的な経営が求められています。福祉サービス事業では、個別支援体制を確立すべく努力してきており、さらに支援の内容を充実させるために全従業員で取り組んでいるところです。
 東京都葛飾福祉工場(金町工場)は前年度に建て替えを完了し、新たな水耕栽培事業を安定させることや、既存の防災、縫製、製袋事業などの主幹事業においては堅実な運営に努力しています。東京都大田福祉工場の建て替えも、東京都の民間移譲施設整備費補助事業により進められており、若干の工期遅れが発生していますが、次年度6月には竣工できる見込みです。主幹事業の印刷は、障害者優先調達推進法を活用するなど売上高の確保に努力しており、期中の売上高は、前年比でほぼ横ばいを維持することができました。

表3 貸借対照表

第三号第一様式(第二十七条第四項関係)

2017年9月30日現在

(単位:円)

	資産の部			負債の部			
	当年度末	前年度末	増減	当年度末	前年度末	増減	
流動資産	3,708,794,823	4,552,076,840	-843,282,017	流動負債	1,372,247,300	1,825,639,469	-453,392,169
現金預金	2,271,275,903	2,427,154,197	-155,878,294	短期運営資金借入金	250,000,000	250,000,000	
事業未収金	698,898,577	1,310,456,874	-611,558,297	事業未払金	552,086,061	1,169,792,843	-617,706,782
未収金	16,373,451	6,055,942	10,317,509	その他の未払金	31,978,628	42,545,442	-10,566,814
未収補助金	10,890,402	290,337,777	-279,447,375	1年以内返済予定設備資金借入金		14,630,000	-14,630,000
受取手形	48,783,110	134,047,781	-85,264,671	1年以内返済予定長期運営資金借入金	1,000,000	3,000,000	-2,000,000
貯蔵品	2,536,939	1,823,251	713,688	1年以内返済予定リース債務	113,699	2,092,194	-1,978,495
商品・製品	279,426,040	302,525,629	-23,099,589	1年以内支払予定長期未払金	7,114,146	13,408,491	-6,294,345
仕掛品	22,293,341	17,740,392	4,552,949	未払費用	44,075,519	67,289,330	-23,213,811
原材料	27,709,459	27,205,584	503,875	預り金	41,249,994	44,883,916	-3,633,922
立替金	28,835,001	24,227,109	4,607,892	職員預り金	22,621,962	18,660,103	3,961,859
前払費用	18,304,268	12,823,250	5,481,018	前受金	47,260,488	92,539,217	-45,278,729
仮払金	154,106,101		154,106,101	仮受金	91,155,874		91,155,874
徴収不能引当金△	2,044,655	2,320,946	-276,291	賞与引当金	114,997,945	95,128,429	19,869,516
仮払消費税	131,406,886		131,406,886	未払税金等	860,510	11,669,504	-10,808,994
固定資産	4,642,860,605	4,211,830,409	431,030,196	仮受消費税	167,732,474		167,732,474
基本財産	1,850,987,574	1,189,747,712	661,239,862	固定負債	965,716,060	822,420,038	143,296,022
土地	740,870,327	740,870,327		設備資金借入金	354,270,547	225,390,000	128,880,547
建物	1,815,265,403	1,184,871,011	630,394,392	長期運営資金借入金	51,200,000	51,200,000	
減価償却累計額△	705,148,156	735,993,626	-30,845,470	リース債務	2,917,110	1,941,240	975,870
その他の固定資産	2,791,873,031	3,022,082,697	-230,209,666	退職給付引当金	517,333,996	507,644,778	9,689,218
土地	370,208,544	370,208,544		長期未払金	39,994,407	36,244,020	3,750,387
建物	686,058,188	1,480,231,562	-794,173,374	負債の部合計	2,337,963,360	2,648,059,507	-310,096,147
構築物	87,006,980	156,206,800	-69,199,820				
機械及び装置	974,154,516	982,806,541	-8,652,025	純資産の部			
車輛運搬具	63,810,671	64,985,268	-1,174,597	基本金	300,915,620	300,915,620	
器具及び備品	250,109,664	246,806,911	3,302,753	基本金	300,915,620	300,915,620	
建設仮勘定	681,781,906	209,258,527	472,523,379	国庫補助金等特別積立金	1,393,615,880	1,426,705,883	-33,090,003
減価償却累計額 △	1,621,554,980	1,766,588,975	-145,033,995	国庫補助金等特別積立金	1,393,615,880	1,426,705,883	-33,090,003
権利	429,500	429,500		その他の積立金	957,045,675	957,045,675	
ソフトウェア	23,727,887	27,316,610	-3,588,723	その他の積立金	44,000,111	44,000,111	
退職給付引当資産	309,369,161	283,371,524	25,997,637	設備等整備積立金	20,000,000	20,000,000	
その他の積立資産	957,045,675	957,045,675		移行時特別積立金	893,045,564	893,045,564	
差入保証金	1,419,860	1,415,860	4,000	次期繰越活動増減差額	3,362,114,893	3,431,180,564	-69,065,671
長期前払費用	10,965	269,856	-258,891	次期繰越活動増減差額	3,362,114,893	3,431,180,564	-69,065,671
その他の固定資産	8,294,494	8,318,494	-24,000	(うち当期活動増減差額)	-69,065,671	189,550,196	-258,615,867
				純資産の部合計	6,013,692,068	6,115,847,742	-102,155,674
資産の部合計	8,351,655,428	8,763,907,249	-412,251,821	負債及び純資産の部合計	8,351,655,428	8,763,907,249	-412,251,821

法人の主な動きから

理事・監事・評議員及び 外部会計監査人の選任に ついて

社会福祉法改正に伴い、定款変更とともに議決機関、執行機関の役割・責任が明文化されました。またその選任方法についても従来とは異なり、評議員選任・解任委員会を設置することや、選任後の登記についても法改正に伴う登記であることから、役員全員が重任であっても就任の扱いとされることとなりました。

新しく就任した役員の一覧につきましては、前号でご報告した通りですが、法改正による事務手続きの変更により、これまで評議員や理事、監事として支えていただいております皆様におかれましても、大きな責任をお願いすることや細かい手続きなどでお手数新たに外部会計監査人を選任し、今回

の法改正主旨でもある「より公共性の高い事業を行う特定社会福祉法人」であることを意識し運営に臨んでいく所存です。

今後も法人運営にこれまで以上に忌憚のないご意見を賜りたく、よろしくようお願い申し上げます。

事務局長 井上忠幸

建て替え・新規事業の進捗 状況

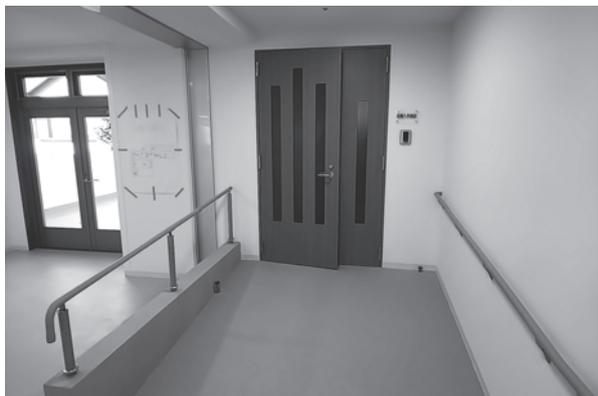
前回の「コロニーとうきょう」にてご報告した通り、本年度は（仮称）中野5丁目障害者多機能型通所施設、東京都大田福祉工場、コロニー中野の3か所の創設、新築、改築事業に加え、コロニー中野から徒歩圏内の練馬区に新たなグループホーム開設のための改築事業が進んでいます。

各拠点とも仮設施設で事業を行うなど大変窮屈な思いをしているところではありますが、それぞれの現場では

着々と建設が進み、ちょうどこの原稿を書いている間に（仮称）中野5丁目障害者多機能型通所施設（正式名称：コロニーもみじやま支援センター）においては建築関係の検査を終えたところと残すところは外構工事となり、その外観をようやく紙面でご紹介できることとなりました。内装は落ち着いた空間と開放感をコンセプトとし、また居心地の良い空間色調でまとめると「毎日でもここに来たい！」を



コロニーもみじやま支援センター外観



短期入所の入り口



落ち着いた色調の廊下



東京都大田福祉工場完成イメージ

感じていただけるような色調でまとめました。
 東京都大田福祉工場とコロニー中野におきましては、まだコンクリートの打設が完了していないため、いかにも工事現場の様相ではありますが、東京都大田福祉工場は2018年6月の竣工に向けて、コロニー中野は2018年3月の竣工に向けて、ほぼ予定通りに工事が進んでいます。
 利用者の皆さんも大変楽しみにしており、現在仮施設で不便なことも、新しい建物では解消されることに期待し、日々の業務に取り組んでおりま
 す。順次内覧会等も行っていくことになると思います。ぜひご期待くださいませ。

事務局長 井上忠幸



コロニー中野完成イメージ



勝又前理事長 全国社会 就労センター協議会 (SELP協) にて表彰

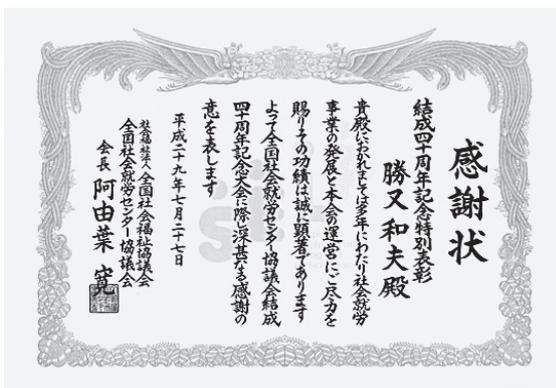
当法人では、就労支援事業を行っている拠点において全国社会就労センター協議会（SELP協）に加入して
 おり、また東京都の選任協議員として
 も役割を担っております。障害がある
 方たちの働くという点については、当
 事者による生きるための方策の一つ
 でもあり、法や制度が整備されていな
 かった時代から運動を通してその声
 を国や行政に伝えようとしてきた歴
 史があります。そのような活動や運動
 を通して1977（昭和52）年に全
 国社会福祉協議会・授産施設協議会
 （全授協）が結成されました。その後
 1995（平成7）年に「授産施設」
 に代わる新名称として「SELP・社
 会就労センター」となりました。その
 中心には東京コロニーから多くのメ
 ンバーが関わってきております。
 SELP協は2017（平成29）年
 に全授協結成より数えて40周年を迎
 えることができました。その中で長き
 にわたり顧問、正副会長等を務められ
 た方を対象に特別表彰が行われ、当法
 人の故・勝又前理事長が受賞する運び

となりました。

授賞式は2017（平成29）年7月
 27日（木）神戸ポートピアで開催され
 た平成29年度全国社会就労センター
 総合研究大会「結成40周年記念 特別
 表彰」で行われ現理事長の中村敏彦が
 出席し、賞状と記念品を授受しました。

勝又前理事長は12期から16期まで副
 会長、12期と15期は事業振興委員長も
 兼務されていきました。故人の功績を称
 えるとともに、法人外におかれまして
 もご活躍されていたことについて改
 めてお知らせし、これまでご指導をい
 ただき、支えてくださった皆様に感謝
 申し上げます。

事務局長 井上忠幸



くすくすピコ

T O P I C S

コロニー中野

鷺宮コロニー祭り

11月11日(土)コロニー祭りが開催されました。仮移転先の鷺宮の地で「鷺宮地区まつり」に参加させていただく形となり、当日は沢山のお客様に来ていただきました。

住宅地ということもあって、焼き鳥やホットドックのような「焼き物」はありませんでしたが、「ころころ」のパンや焼き菓子、「アートブリテイ」のカレンダーやクリアファイル、「物販係」のプリザーブドフラワーやバスボムなど、コロニー中野をご紹介します。



朝からたっぷり焼きました

る商品が見事に並びました。中でも4月に移転してきてから敷地内でパンの販売を行ってきた「ころころ」の認知度は高く、お祭りでも大人気！お祭り用特別メニューの焼きそばとミートソーススパゲッティが半分ずつ入っているドッグパンは想像以上の売れ行きでした。

また「鷺宮地区まつり」のスタンプラリーに企画参加し、「車イス体験コーナー」を設けました。手動車イスに乗って自分で動かしたり、人が乗っている車イスを押ししたりするコーナーです。初めての体験で不安げだった小学生の表情が、体験後笑顔に変わり、「もう一回やっていい？」と声をかけて来てくれたのが印象的でした。



ピエロさんたちもスタンバイ

「来年も地区まつりに参加してね。」と地域の方にリクエストいただき、来年は江原町に戻っているはずだけど…と複雑な心境を隠しながら、今回のお祭り大成功！と心躍る一日になりました。

支援課 係長 深田雅美

中野区仲町就労支援事業所

2017宿泊訓練

10/19～20で宿泊訓練に行ってきました。目的は複数箇所の候補地の中からアンケートで希望をとり、最も多かった那須・日光です。

あいにくの雨模様の中、中型バスで最初の目的地、那須どうぶつ王国へ。そこでお昼は皆さんお待ちかねのバーベキューです！雨天の為、室内となりましたが、大勢で食べると食欲が増すのか、普段小食の方もご飯をおかわりしてお腹一杯の様子。予算の関係で肉の食べ放題は断念しましたが、それでも皆さん肉の奪い合いなどのトラブルを起こさずことなく紳士的に楽しんでいただきました。

食事の後は、動物たちがいるエリアを各々見て回りました。しかし、この

天気の良い日か、人がまばら……。正直、雨の日に来るところではないのかもしれない。客が少ない分、動物たちとはたっぷり触れ合うことができました。



2日目はいよいよ世界遺産の日光東照宮へ。雨の平日ということもありガラガラだろう、なんて思っていたらとんでもありません。修学旅行生、外国人などを含む観光客でごったがえしていました。その人込みをかきわけ、歴史に思いを馳せながら国宝級の建築物を見学しました。

近年、仲町では宿泊訓練の参加者が減少傾向にあり、昨年は職員・利用者合わせて参加人数が16名まで落ち込みました。しかし今回は宿泊委員を中心に声をかけて誘ったり、興味を引くようなポスターを作成したりと努力がありました。来年はさらに参加者が増え



るような取り組みをして大人数で楽しみを分かち合いたいと思います。

支援課 係長 高橋明宏

中野区中野福祉作業所

六回目

そして最後の福作まつり

中野区より中野福祉作業所の運営の委託を受け六年目、今年度一杯で事業が終るため最後の開催となりました。今年度は例年より一週間遅くなり十月二十日、二十一日に、例年通り野方区民活動センターの部屋をお借りし、地

域の野方祭の一部として行われました。

ただ、二日間とも台風の直撃を受け、いろいろな場面で変更を余儀なくされました。まず、ダンスは初めてホールで行うことになり、普段より近いお客さんの位置や観客席が暗いなど勝手が違ったようですが「恋するフォーチュンクッキー」をいつもどおり元気に踊り、たくさん拍手を受けていました。ただ花笠踊りでは打ち合わせと違うようになってしまったらしく狭い舞台で踊りにくそうでしたが、全員の顔を一度に見られ、これはこれで



よかったのかなと思いました。

展示では、普段の仕事やプログラムの様子をパネルにしたものや、水耕栽培を解説した手作り展示物での紹介、自主製品の販売を行いました。台風の中たくさんの方に来ていただき、中野福祉作業所のことをわかっていただき、また売り上げも二日間で五万円近くも上がりました。

模擬店は雨天時はテントを張りその下でやる予定でしたが、係の方が「こちらでやってほしい」と雨には当たらないもののトイレの前のスペースに案内されました。どうしようかと思案



をしていると、中野区障害者福祉事業団が借りている部屋を荷物を少しおいていただけなのでお借りできるとになり、予定通りストラックアウトとくじ引きを行いました。

唯一残念だったのは、例年は自由時間共催されている野方まつりの模擬店などを楽しめるのですが、台風のため外に出づらく室内の見学が多くなってしまったことです。

来年度からは中野五丁目の新施設で新たなお祭りを計画する必要がありますが、今までの経験を生かしてすばらしいものにしていききたいと思えます。

支援係 中村日出王

コロニー東村山

余暇活動調理プログラムを

実施しました

10月28日(土) 余暇活動として「みんなで好み焼きを作って食べよう」と題し、調理プログラムを実施しました。参加メンバーは6名の利用者さんと3名の従業員。コロニー東村山の食堂を使って、みんなで作って、みんなで食べました。



最初は買い物から。お好み焼き粉、卵、キャベツ、豚肉、紅しょうがなどの材料を近隣のスーパーで買いました。9人分の材料となると結構な量の荷物です。みんなで手分けしてコロニーまで運びました。

調理に入る前にエプロンを身につけ、バンドナで頭をおおい、念入りに手を洗います。食べ物を扱うので、ここは大事なポイント。みんな準備が整ったら調理開始です。

普段料理しない人、手馴れた包丁さばきの人、みんなで手分けしながら生地を作り、ホットプレートで1人1つ

ずつ焼いていきます。焼きあがったらお好みでソース、マヨネーズ、鰹節、青のりをトッピングしていざ実食!

肝心の味の方は、ちゃんとお好み焼きらしい味に仕上がっていました。参加メンバーのみんなの反応も上々。2回、3回と繰り返し焼いて、作った生地を残すことなく完食しました。

実は事前に他の事業所の方から、「調理プログラムは作って食べるだけでなく短時間で終わってしまおう。間を持たす工夫が必要」というアドバイスをいただいております。そこで今回は、事前の準備は最小限のものだけに、材料の買い出しもプログラムの一環として行いました。また、お好み焼きというメニューであったこともあり、作っては食べ、の繰り返しでしたが、当初の予定より30分超過のたっぷり3時間30分かけたプログラムとなりました。調理プログラムは今回初めてでしたが、美味しく楽しむことができました。調理プログラムは今回初めてでしたが、美味しく楽しむことができました。

参加した利用者さんからは、「たのしかったね!」「おなががいっぱいになった!」「またやりたい!」といった感想の声をいただきました。好評にお応えして、また別のメニューでもやってみたいと思います。

副所長 坂本 崇

トーコロ青葉ワークセンター

鎌倉プリンスホテルで昼食、

新江ノ島水族館旅行

11月10日(金) 日帰り旅行に行きました。8時に集合しバス3台で出発です。例年通りどのバスも行ききの車中からカラオケで盛り上がりました。今年からは中央道から高速に乗り、圏央道を通って、まずは鎌倉プリンスホテルで昼食です。七里ヶ浜を望む大きな会場でフレンチのコース料理を堪能しました。(白身魚の海草蒸し蜂蜜とたまり醤油ソース、チキンのトマト煮込みペンネクリームズッキーニなど) ひとつと違った雰囲気であつと贅沢でしたのではないのでしょうか?

食事の後は新江ノ島水族館です。到着するとすぐにイルカショーが始まりました。イルカの華麗なジャンプなど「きずな」と題した20分間を、及ぶショーを楽しみ、館内を少し見学すると





もうお土産を買う時間です。皆さんどれにしようか迷いながら家族へのお土産を買っていました。もう少しゆっくり見学しなかったと言った声も聞かれ、名残

惜しさを感じつつ帰路につきました。当日は天気もよくあつという間でしたが、美味しい料理にイルカショーと満足していただけたのではないのでしょうか？もう来年はどこに行きたいとの声が上がっています。また楽しい計画を立てていきたいと思えます。

事業課2係 係長 國吉正之

職能開発室

機関紙「トライアングル」発行

職能開発室では1年に3回、在宅で働くことの可能性を広く社会の皆さま



まに知っているただくことを目的とした機関紙「トライアングル」を発行しています。

創刊から約25年の歴史を持ち、障害のある方はもちろん、企業の人事の方や、行政機関、大学、研究機関など多くの方に読んでいただいています。

既にご存じの方も多いかと思いますが、改めて当機関紙の内容をお伝えしますと、主に【在宅就労、在宅勤務にまつわるトピック】、【在宅就労、在宅勤務事例】、【SOHO情報】、【障害のある方を対象としたIT教育情報】をベースに、職能開発室の事業である「I

T技術者在宅養成講座】や【東京都障害者IT地域支援センター】の様子なども折に触れて盛り込んでいきます。

教育事業の講習生の資格取得や就職情報を祝った

【おめでとう】欄は、スタッフにとっても誇らしく嬉しいコーナーです。

これまではサブタイトルを「重度身体障害者の在宅就労を考える」としていましたが、今号より、現実的に即し「障害のある人の在宅就労を考える」とし、障害種別を特定せず、より幅広く在宅就労に関するテーマを取り扱うことといたしました。

65号では「障害のある人のテレワークを推進する全国組織発足※」、

66号では「在宅就労中におけるヘルパー利用について厚労省に要望提出」をトピックとしてあげており、反響をいただいております。次回発行は3月です。

IT技術や法制度など社会情勢が移りゆく中、入職1年目のわたくしに職

障害のある人の在宅就労を考える

トライアングル

Triangle

Vol. 66 Nov. 2017

社会福祉法人 東京ココロ一 職能開発室
〒131-0005 東京都葛飾区大塚3丁目4-11
Tel: 03-6614-0400 Fax: 03-6614-0400
http://www.toco.or.jp/syokunou/trianglecontents.html

Index
Topic
「在宅就労もヘルパー使えるようにして！」
一障害者に要望にまいりました

■ 特集 国際福祉機関
—スタッフによる「気づけ！、この一品」—

■ IT技術者在宅養成講座
平成30年度「IT技術者在宅養成講座」受講生発表
「57歳生 スクーリング」

■ シリーズ 障害者IT地域支援センターづくり 第28回

■ おめでとうコーナー（資格取得、就職）

Topic! 「在宅就労もヘルパー使えるようにして！」 障害者に要望にまいりました

去る8月9日、わたくしども職能開発室は、社会福祉法人やNPO法人などの8団体からなる「障がいのある方の全国テレワーク推進ネットワーク」（全障テレネット※1）の一員として、制度の見直しを求め、厚生労働省に要望書を出しました。

現行制度では、自宅で働いている障害者は収入が少なくて、基本的に訪問介護サービスを利用できません。要介護認定や障害者年金などのサービスを利用して、自宅で働く人も、サービスの恩恵にあずかると、これまで介護サービスは認められていません。

こうした利用制限により、働くことをめざったり、家族が代わりに支援をせざるを得なかったりしている現状があります。いくら、政府が「働き方改革」でテレワークを推進していても「家賃がヘルパー」の二重苦では、「重い」障害があっても能力を生かして働ける社会にはほど足りません。

わたくしどもの在宅就労の受講生さんや修了生さんの顔を思い浮かべると、その多くの方がこの対象になっており、実業の現場であることがわかります。担当部署には早急の調査をお願いいたします。

※ 全障テレネット
障害のある方のテレワークに関する支援を長年行っていた団体が集結し、より積極的なテレワーク推進を目的として、全国的なネットワーク組織を築定（2017.6）。団体メンバーは、北海道、関東、中部、中国圏と広域であり、かつ、組織の形も、非営利、企業、第3セクターなど多岐であるのが特徴

※ 『福祉新聞』より
http://www.fukushishinbun.co.jp/topics/15041

厚生労働省にて
右手、障害者の方々。左手、奥から、かがわりハビリテーションセンター様、札幌チャレンジド様、東京ココロ一の皆さま

能開発室の一員として何が提言できるか、日々模索しております。歴史ある「トライアングル」に携わることに重責を感じますが、多くの読者の方に満足していただけるよう努めて参ります。

☆機関紙「トライアングル」はWEB版でもお読みいただけます。
http://www.toco.or.jp/syokunou/triangle/contents.html

職能開発室 受川隆之

※全障テレネット
障害のある方のテレワークに関わる支援を長年行っていた団体が集結、より積極的なテレワーク推進を目的とした全国ネットワーク組織。

東京都葛飾福祉工場

FCC東京

『ECOパスプロジェクト』

当工場では、このたび、Jリーグ（日本プロサッカーリーグ）のJ1に所属するFC東京様の『ECOパスプロジェクト in 味スタ』の企画にご指名をいただき、『ECOパスバッグ』の名称でチームのロゴマークをあしらったエコバッグを縫製する仕事を受託させていただきました。

FC東京様が企画された『ECOパスプロジェクト』とは、ホームグラウンドである味の素スタジアムで観客の皆様がゴミを捨てる際、分別することにより資源として再利用できるこ



ECOパスプロジェクト
in 味スタ

ECOパスバッグ

みんなでゴミの削減に取り組もう!

今シーズン、FC東京がクラブ全体で積極的に取り組んでいる「ECOパスプロジェクト」待望の第二弾グッズは、ECO活動のマストアイテム「エコバッグ」！持ち運びに便利で色々なシーンで大活躍！

ペットボトルをリサイクルして製造した素材を使用
ペットボトルをリサイクルして製造した素材を使用し、制作しています。

「東京コロニー」とタイアップして製作
社会貢献活動として社会福祉法人「東京コロニー」にて加工・縫製しました。

「東京コロニー」とは？
社会福祉法人東京コロニーは、1951（昭和26）年10月に東京都葛飾区、観音の森に「社会福祉センター」を開設するなか、社会福祉の発展と市民生活の向上を図ることを目的として社会福祉の発展を目的として、東京コロニーを設立。社会福祉の発展を目的として、社会福祉の発展を目的として、東京コロニーを設立。社会福祉の発展を目的として、社会福祉の発展を目的として、東京コロニーを設立。

今後も、味スタでのゴミの分別・ペットボトル回収へのご協力をよろしくお願い致します。

とをアピールするものです。

そして今回、同プロジェクトの一環として、観客の皆様にはリサイクルをより身近に感じていただくために、味の素スタジアムで分別・回収されたペットボトル等を再利用した生地を使用したエコバッグを製作することにしました。東京の縫製工場でお客様へ提供したい、さらには東京コロニー・東京都葛飾福祉工場という障害者福祉施設で製作することに社会的な意義があるとの経緯で、ご指名をいただきました。このお話を伺った帝人フロンティア株式会社様には、最初から最後までお力添えをいただき、ようやく完成までこぎつけることができました。

エコバッグの初回販売は、10月21日（土）に味の素スタジアムで、「FC東京 vs 北海道コンサドーレ札幌」戦において行われました。当日は残念ながら雨模様となりましたが、嬉しいことに、試合開始1時

間前には完売したそうです。

今回、このような貴重な仕事を幹旋くださった、帝人フロンティア株式会社様、FC東京様に感謝し、今後もこのような意義深い社会貢献ができる仕事に携わっていきたいと思ひ、皆様にご報告させていただきました。

防災営業部業務課長 清水 心

東京都大田福祉工場

聞こえをサポートする「ヒアリンググループ」の購入

ヒアリンググループとは

このたび三菱商事様より寄付金の補助を受け、保健室にヒアリンググループが入りました。聴覚障害は外見だけではわからず、補聴器を付けているから聞こえるのでは？ 話せるから聞こえるのでは？ と、周囲に理解されにくいです。補聴



講演や説明会など。

器にはあらゆる音が無選別で聞こえてくるため、聞き分けが困難で疲れてしまいます。ヒアリンググループ（磁気ループ）は、周囲の騒音や雑音に邪魔をされずに、目的の音、声だけをハッキリと聞きとることが出来る便利なものです。

購入までの経緯

私は保健室で働く看護師で、聴覚障害があります。従業員や利用者の方から相談を受けることが多く、人によって声の高低や話し方の癖で、対面であっても聞き取れないことがあります。相手の口の形を読み、筆談という形で対応していました。9月に入り、所長から「保健室にヒアリンググループ



少人数の会議で。



を常備して使ってみてはどうだろうか？」と提案されました。
ヒアリンググループについては、以前より通っている東京都障害者福祉会館で、その便利さを経験していました。9月にデモストレーションをして、聴覚サポートを必要とする人で使用感を体験したのち、購入決定になりました。

使ってみて
11月より保健室で使用を開始しました。声の小さい人、口の形がはっきりしない人、風邪のためマスクを外せない人でも、マイクを通した声は、は

きりと聞こえるようになり、コミュニケーションに不便を感じなくなりました。先日行われた従業員全員が参加する総括会議で使用したところ、視覚からの手話通訳の情報と、ヒアリンググループからの聴覚からの情報で、会議内容もよくわかりました。

聞こえのバリアフリーを整備していただけることは、仕事をしていく上でモチベーションが上がります。素晴らしい配慮をしていただき、感謝をしています。

今後は、他の聴覚サポートを必要とする人も使用できるように、使用用途を広げていくことも検討していきたいと考えています。

人事・総務課 看護師 関ひかり

福祉事業本部

グループホーム

「東久留米氷川台寮」体験型がスタートしました

昨年5月に第一氷川台寮を退寮された利用者さんのお部屋が空き、そのお部屋を一年間の「体験型」として多くの方にご利用していただくことになりました。

初めてご家族と離れての生活になるので、一年間グループホームでの生活を体験してから次へのステップにつなげていくことが目的になります。体験型を利用することで自立へのきっかけにしたいだけだと思います。

この体験型に昨年9月から女性の利用者さんに入居していただき、第一氷川台寮はまた6名になりました。以前から入居しているみなさんは、新しい利用者さんが来る1ヶ月前からとても楽しみにしていました。当日はみなさんの方が少し緊張されていて、それでも待ち遠しいのか玄関で待っていたり職場から急ぎ足で帰寮された様子が伺われる利用者さんもうらっしゃいました。それぞれ表現の仕方は違いますが、みなさん温かく迎えてくれています。

体験型がスタートし新しい利用者さんがいらしたことで、みなさんの新たな一面を見ることにより今までの支援を振り返り直すこともできました。第一氷川台寮に入居されてから長い年月が経ち、グループホームの生活に慣れているのが当然のように見えますが、みなさんも初めて入居されたときは寂しさと不安でいっぱいだったと思います。初めての経験で戸惑うことも多く、そこを乗り越えてこられたのはご家族の方の支えが何よりも

大きかったと感じています。

利用者さんにとってグループホームが居心地がよく安心できる場所であることが大切であり、スタッフは常にそれを心掛けて支援していくべきだと思います。

第一氷川台寮の体験型で一年間が終わった時に利用者さんに自信が付き、将来はグループホームで生活がしたいと思っただけでなく、次へとつなげていってほしいです。

グループホーム課 班長 広井法恵



アートビリティ Artbility ギャラリー 39



『手賀沼の朝』
岩立 徳治さん

輝く新年、その始まりにぴったりの作品をご紹介します。

この作品を観ていると、命の輝きを感じます。

地球が呼吸して、大地がうねり、植物の根が雨水を吸い上げる姿が想像できます。

地球に住む小さなものたちも、この力強い大地ならば生きていけそうです。

そしてこの作品上で大きな存在感を放っているのがメラメラと燃える太陽です。

ほとんどの生き物の活動に欠かせない、太陽。

同じように、多くのアートビリティ作家にとって絵を描くことは生きる上で欠かせません。

太陽の様に光り輝く作品たちが、多くの方の目に触れ、その光を放ち続けられるように、岩立さんが描いたこの太陽の力をお借りし、事務局一同これからも邁進してまいります。

.....

【作家プロフィール】

1952年生まれ。千葉県在住。

腫瘍の摘出手術により下半身に障害を負い、部屋にこもりがちになった。

外に出掛ける機会として、「障害者の水彩画教室」に通い、絵を描くようになる。

■アートビリティ…障害者の所得支援を続けてきた社会福祉法人東京コロニーが、アートの分野で力を発揮する人材を後押しし、その才能を収入に結び付けるために始めた事業です。約200名の作家による約5,000点の作品が揃ったアートライブラリーとなり、年間約400点の作品が使用されています。

ご寄附のお礼

(2017年6月～2017年11月 総額 8,200,200円)

下記の皆様より、当法人に対してご寄附を賜りました。ご支援に対しまして心より感謝申し上げます。

2017年6月～11月 永山コンピューターサービス株式会社 様	2017年10月 三菱商事株式会社 様
2017年6月 三浦 きく子 様	2017年11月 小池 誠 様
2017年6月 三菱商事株式会社 様	2017年11月 全国本田労働組合連合会 様
2017年7月 有限会社日下工業 様	2017年11月 伊藤忠エネクス株式会社 様
2017年9月 岩城 克臣 様	

◎文中の写真はご本人の了解を得て掲載しています。

東京コロニーのホームページ



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー東村山
<http://www.colony.gr.jp/colonyhigashimurayama/>



コロニー印刷
<http://www.colony.gr.jp/>



デジタルメディアセンター
<http://www.dmc-net.jp/>



アートビリティ
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



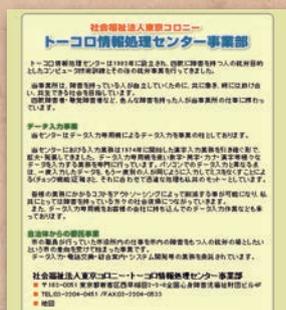
トーコロ情報処理センター職能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.colony.gr.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター
<http://www.tocolo.or.jp/seikatu/index.html>



グループホーム
<http://www.tocolo.or.jp/grouphome/index.html>



中野区仲町就労支援事業所
<http://colony.gr.jp/nakatoyoshienn/>



中野区中野福祉作業所
<http://colony.gr.jp/nakanofukusaku/>



コロニー中野
<http://colony.gr.jp/colonymakano/>